

流域治水企画室

NEWS LETTER

第3号

Contents

- P2, 3 担当者インタビュー（みやま市）～教えて流域治水の取組み～
- P4 担当者インタビュー（久留米市）～教えて流域治水の取組み～
- P5 玖珠川を中心に上下流連携を考える
- P5 流域治水協議会・減災対策協議会(合同開催)
- P6 筑後川本格改修 100 周年イベント
- P7 河川協力団体イベント

筑後川とともに未来へ～みんなで作ろう「筑後川100年物語」～



令和5年(2023年)、
筑後川は本格的な改修が始まって、
100周年を迎えます。

担当者インタビュー ～ みやま市建設課・総務課の担当者に聞きました！！ ～

矢部川流域に位置するみやま市では、毎年のように大雨による冠水被害を受けています。そのため、流域治水の推進が必要であるという共通認識のもと、令和4年4月に市の関係部署が集まった「流域治水連携会議」を設置しました。流域治水をマスメディアにも取り上げていただき、地元の方の流域治水への関心・理解が深まり、協力体制ができてきました。

今回、流域治水企画室のメンバーで、みやま市での流域治水の取り組み状況について、取材してきました。（写真-1）



写真-1 取材の様子（右：城戸課長 左：松尾係長）

—— みやま市での流域治水への取り組み内容について教えてください ——

～ クリークの先行排水及び高田堰操作 ～



写真-2 クリーク先行排水前



写真-3 クリーク先行排水後

地元の水門操作員の協力のもと、クリークの先行排水を実施しています。（写真-2～4）

潮の干満の影響もあり、先行排水だけでは効果が薄いため、排水先は飯江川を管理する矢部川出張所に高田堰の操作もお願いしています。両操作を行うことにより、今年は冠水被害がほとんどありませんでした。現状、高田堰は先行排水と同時に操作いただいておりますが、スムーズな排水を考慮して今後は、堰操作を先行していただきたいと思います。



写真-4 高田堰操作後

地元からも感謝の意見等をいただいております。（以下抜粋）

- ・クリーク先行排水の取組みは、ありがたい。
 - ・高田堰操作の早々の検討・操作実施いただき、感謝している。
 - ・以前は、排水機場の強制排水や潮の引きに頼るのみだったが、今後は行政との連携も期待したい。
 - ・地元の水門操作リレーもスムーズになってきたので、国と市も連携を密にお願いしたい。
 - ・雨の予想が外れても覚悟している。恐れているは先に進まない。この先、先行排水の流れをしっかりと作っていきたい。
- 一方で、上流域は冠水しないため、なかなか協力が得られないなどの意見も出ています。今後も継続して、流域治水の理解・ご協力をお願いしていく事が大事と考えています。

～ 自主防災組織の設立・活動支援 ～

冠水が多い行政区をはじめとする各行政区と意見交換を行い、自主防災組織の立ち上げを支援しています。現在の組織率は、みやま市国土強靱化地域計画の目標 70%に対して約 60%まで達しています。平成 24 年以降、毎年冠水被害を受けている本郷・南校区など力を入れて取り組まれており、校区単位（校区の中に各行政区あり）での組織立ち上げが進んでいます。

自主防災組織では、連絡体制の確認、校区防災マップの作成、防災訓練などを行い、大雨や台風時の避難に備えるための活動をされています。

～ 水路の浚渫・整備 ～

農繁期を過ぎる 11 月頃から、水路の断面確保のため、水を抜いて土砂浚渫や護岸整備を行う予定です。

～ 排水機場の整備・更新 ～

既設の排水機場について、排水能力をアップする検討など進めています。

～ ため池ハザードマップ、洪水ハザードマップの作成・更新 ～

大雨時の避難対策として、ため池ハザードマップ及び洪水ハザードマップを作成・更新して、みやま市ホームページに公表しています。

～ 田んぼダム ～

田んぼダムの協力依頼を市内部で行っていますが、現状なかなか進んでいません。

～ マスプロダクツ型排水ポンプ設備現場実証 ～

近年、日本各地で大規模な内水氾濫が頻発しており、迅速な内水被害対策が求められているとともに、今後老朽化した排水機場の急増に伴い、一斉に更新が必要となる状況です。

そのため、国土交通省において、自動車業界とポンプ業界の異業種連携により、量産品の車両用エンジン等を採用することで、経済性・操作性・維持管理性に優れた、「マスプロダクツ型排水ポンプ設備」の開発が進められています。

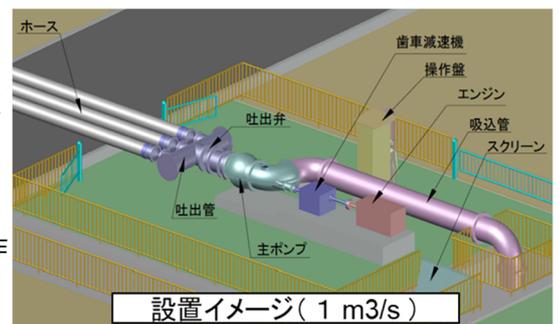


図-1 マスプロダクツ型排水ポンプ設備

河川機械設備革新的技術実証事業は、マスプロダクツ型排水ポンプ設備の社会実装に向け、市区町村の協力を得ながら、出水時に稼働させ、耐久性、操作性、現場適用性、維持管理性などの検証を目的に行うものであり、現場実証に協力可能な市区町村の公募が行われ、みやま市において現場実証に応募し、採用されました。

マスプロダクツ型排水ポンプ設備は排水能力が 1m³/s であり、排水ポンプ車 2 台分に値します。**(図-1)** 排水ポンプ車による浸水解消効果は、地元の方も実見しており、大きな期待が寄せられています。

今回の取材では、みやま市での流域治水の様々な取り組みを伺うことができました。

ご協力いただきました城戸様、松尾様、小松様に改めて感謝申し上げます。

担当者インタビュー ～久留米市農村森林整備課の担当者に聞きました！！～

近年、よく耳にする田んぼダム。台風11号襲来を前に久留米市内で取り組んである田んぼダムがTV放映されました。それを見た私たち流域治水企画室メンバーは、田んぼダムの取材に行ってきました。そこには、皆さんに知っていただくために、取り組みにはある工夫が・・・。

久留米市も始めました田んぼダム！！

～今年から始めた田んぼダムについて教えてください～

田んぼダムとは、排水口に専用のセキ板を設置することで、水田に降った雨を一時的に貯め、ゆっくりと排水し、洪水被害の軽減を図るものです。地元へ足を運び、営農者や関係者の方へ理解、協力をお願いしたところ、今年度は東部地域の5地区（約41ha）で始めることができました。田んぼダムでは、営農に支障がない範囲で、6月末頃から10月末までセキ板を設置します。

① セキ板製作費	1,000円/枚
② セキ板・畦畔管理	1,000円/10a
③ PR・啓発活動	10,000円

表-市独自の支援

市からセキ板を支給するのではなく、①セキ板製作②セキ板管理・畦畔管理③PR・啓発活動を一括して、地元活動団体に業務委託を行いました。

(表-市独自の支援)

～どのような補助金を活用していますか？～

農林水産省の多面的機能支払交付金と市独自の支援（上記の業務委託）となっています。

表-市独自の支援

～どのようなPR活動ですか？～

取り組みを皆さんに知っていただくために、**市で製作したノボリ旗を支給し**、目立つように、幹線道路沿いに旗を設置しています。



写真-1 道路沿いに10数本並ぶノボリ旗

(写真-1) 初年度ということで、市職員と地元、共同で設置しました。また、ポスターも作製しています。

～どのようなセキ板を使用しているのですか？～

セキ板の大きさが場所により様々であるため、セキ板の製作を地元へお願いしております。営農者自身で製作されてある場合もあります。形は、V字型のスリットであったり、四角形のスリットのセキ板、また材質も木製の合板、プラスチックなど様々です。従来のセキ板の上に、高さ10cmを上乗せすることを目安としています。



写真-2 プラスチック製のセキ板

～田んぼダムの協力依頼で苦労された点、配慮された点を教えてください～

営農者としては、田んぼダムによる水稻育成への影響、畦畔の崩壊、セキ板管理の労力などが生じるのに対し、恩恵を受けるのが下流域になるため、田んぼダムへのご理解とご協力を得るのがとても大変でした。



(写真-3 取材に対応いただいた久留米市農村森林整備課 左から小山様 田代様 古賀様)

また、国の補助額に加え、**市独自の支援を実施しています。**

～今後の展開について～

地元代表からの話では、7月・8月大雨や台風の際、一定の効果があったと伺っています。また、水稻への影響も少ないことを安心材料に、来年度以降も取り組み地域を拡大したいと考えています。

最後に

ご協力いただきました久留米市の田代様、小山様、古賀様には改めて感謝申し上げます。

玖珠川を中心に上下流連携を考える

－大分県内自治体による流域治水に係る意見交換会－



▲筑後川河川事務所・大分県

▲写真左より 宿利町長 原田市長 時松副町長

令和4年9月29日（木）大分県日田総合庁舎で「筑後川流域自治体（大分県内）による**流域治水に係る意見交換会**」が開催されました。会議には原田市長（日田市）宿利町長（玖珠町）時松副町長（九重町）のほか筑後川河川事務所・大分県が出席。9月18日の台風14号による大雨では玖珠川の天瀬橋観測所（日田市天瀬町）などで危険水位を超過しています。その時の状況も踏まえつつ各主体が直面している治水の課題について意見が交わされました。

主な意見（要旨）

- 今後の治水は「流域治水」がキーワード
- 川づくりや街づくりなども含めあらゆる分野の流域治水の連携で地域を守っていかなければならない
- 川幅を広げるのも限界があるため雨水貯留や遊水池なども含め広範囲で考えるべき
- 「田んぼ」「ため池」など既存活用の流域治水は効果発現が早く有効である
- 「田んぼダム」について地域の合意形成には課題がある
- 保水力・土砂流出抑制を保つ森林管理にも課題がある
- 河川掘削なども継続的実施が必要
- 未耕作地や減反の田んぼを流域治水に活用できないか
- 整備・管理が容易な小さな雨水貯留の多数整備も良いのではないか
- 水路改築など自治体単独での対策は進めてきたが浸水被害解消にはさらなる対策が必要であり流域自治体や関係機関の連携を期待

開催日程が決まりました

筑後川・矢部川流域治水協議会

筑後川・矢部川大規模氾濫に関する減災対策協議会

幹事会 令和5年1月19日（木）10時から

協議会 令和5年2月9日（木）10時から

- ◆ どちらもWEB（Zoom）開催です
- ◆ 今までの取り組み状況や流域治水プロジェクトに関する内容などが話し合われます



▲前回協議会の様子（前回WEB開催）

筑後川本格改修 100 周年イベント

筑後川流域内外で開催されるイベントに筑後川河川事務所も参加し、これまでの100年に行ってきた筑後川の本格的な改修の取り組みから、これからの筑後川について考える「流域治水」までをまとめたパネルの展示や、100周年ロゴマークを用いたのぼり旗、オリジナル缶バッジ等を使用して、筑後川本格改修100周年をPRしています。

●10/2（日）土木の日ファミリーフェスタ 2022 国営海の中道海浜公園



●10/8,9（土,日）久留米天神エリア秋のスタンプウォーク 西鉄久留米周辺



●10/15,16（土,日）筑後川のめぐみフェスティバル 2022 福岡市役所前



●10/30（日）第35回筑後川フェスティバル in うきは「ちくご川わんぱーく」道の駅うきは



河川協力団体イベント

●11/23 (水・祝) 矢部川シンポジウム2022 流域治水と森林

矢部川シンポジウム2022

流域治水と森林



私たちが暮らす矢部川は、全長61km、流域面積647km²の一級河川で、有明海の干拓や瀬川の掘削、そして多くの井堰と排水路が張り巡らされるなど、豊かな水環境が広がっています。一方、平成24年九州北部豪雨の大災害から10年を迎え、その間にも大小さまざまな水害が発生するなど、災害対策も止まらぬ重要な課題です。

近年、九州だけでなく全国において経験したことのないような集中豪雨が目立つようになり、これまでの治水対策に加えて、流域のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」への転換が求められています。

矢部川をつなぐ会では、過去2年間、流域治水に関するセミナーやシンポジウムを実施してきました。今年度は、流域の真髄である「森林」と「水」との関係について学びを深め、矢部川エリアの流域治水を上流域から考えたいと思います。

講演 「森林の機能と流域治水（仮題）」
蔵治 光一郎氏
(東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林・教授)

2022年
11月23日(水・祝)
13:30 ~ 16:45

参加無料

会場 八女市黒木地域交流センター ぶじの里 多目的ホール (八女市黒木町藤原207)

対象 矢部川流域にお住まいの皆様、森林と流域治水に関心のある皆様

定員 80名
▶会場の参加申込方法は裏面をご覧ください

YouTube Liveにてライブ配信も行います
https://youtu.be/d55z6fJm4o

※会場にて「平成24年九州北部豪雨と復讐の取り組み」のパネル展示を行います。

主催：矢部川をつなぐ会 <http://www.yabegawa.net/>

矢部川の自然景観を守り、文化を守る活動をしている流域の団体が、矢部川の水恵みに感謝し、次世代に継承するために、平成17(2005)年11月に発足したネットワークです。

※この事業は国土交通省筑後川川事務所「令和4年度筑後川防災意識啓発委託事業」として実施します。

矢部川シンポジウム2022 流域治水と森林

日時 2022年11月23日(水・祝) 13:30 ~ 16:45

会場 八女市黒木地域交流センター ぶじの里 多目的ホール (八女市黒木町藤原207)

※オンライン「YouTube Live」にてライブ配信も行います。視聴は申し込み不要、リンク先よりご覧ください。

※会場にて「平成24年九州北部豪雨と復讐の取り組み」のパネル展示を行います。

プログラム

13:30 開会

13:35 基調講演 「森林の機能と流域治水（仮題）」
蔵治 光一郎氏 (東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林・教授)

14:50 ~休憩 15分~

15:00 話題提供 ~矢部川流域の森林に携わる立場から~
中司勝万氏 (八女市矢部町で農林業を営む。矢部村愛林クラブ、福岡県農業者グループ連合会会長)
小森耕次氏 (認定NPO法人山村塾塾長)

15:30 パネルディスカッション「流域治水と森林」
蔵治光一郎氏、中司勝万氏、小森耕次氏
コーディネーター：島谷孝宏氏
(熊本県立大学・球磨川治水策研究室 室長(特別教授)、九州大学大学院工学研究院特命教授、大正大学特命教授)

16:45 閉会

講師 蔵治 光一郎 (くらじ こういちろう)
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林・教授

1965年東京都生まれ。東京大学農学部林学科、同大学副博士課程修了、青年海外協力隊員としてマレーシア・サバ州森林局研修先任に赴任。博士(農学)。2017年より筑後、健全な水環境の維持をなす「森林における水循環」「森林と水との関係」をテーマとして大学教養や研究を行う。災害に強いづくり、長良川流域治水の推進、農山村再生が目的とするための森林の活用といったテーマについて、流域を単位としたローカルな活動を行っている。代表的な活動に、矢部川流域において2014年までの10年間、市民と研究家、森林ボランティアが協働して取り組んだ「森の健康診断」がある。主な著書・編著に、「理の健康診断の10年 新しくするための流域の森のツキとマナビ」「緑のダム科学-防災・森林-水環境」「森の“心”は理想か 科学者が考える森と人の関係」「川と水」の関係を解き明かす 現場からのメッセージ」など。



申込方法 会場での参加を希望の方は、
1)氏名、2)連絡先、 3)所属(あれば) を以下までお知らせください。

問合せ先 矢部川をつなぐ会事務局 (山村塾 小森耕次)
〒834-1222 福岡県八女市黒木町藤原 9836-1
TEL・FAX： 0943-42-4300 Eメール：sannson[at]f2.dion.ne.jp

参考 過去の事業 (録音映像あり)
▶2020セミナー「令和2年7月筑後川治水治水を考える」@柳川 <http://www.yabegawa.net/346/>
▶2021シンポジウム「矢部川の流域治水を考える」@八女 <http://www.yabegawa.net/371/>

●11/26,27 (土、日) 九州「川」のワークショップ in 筑後

つなごう・つながろう九州の川

~水と森と命をまもる~

第21回

九州「川」のワークショップ

筑後

様々な「川」の活動発表。子どもも大人も学ぼう、交流しよう!

開催日 令和4年11月26日~27日

会場 日田市大山文化センター
住所：大分県日田市大山西西大3600

1日目 11月26日(土)

12:00 受付開始
12:45 オープニング
13:00 開会式
13:15 ステージ発表(子どもの部・大人の部)
15:15 表彰式(子どもの部)
17:40 初日プログラム終了
18:00 交流会(日田市のビール園にて)

2日目 11月27日(日)

09:00 入場開始
09:30 アピールタイム(大人の部)
10:40 講演 原田啓介日田市長
11:10 開会式
11:30 閉会

新型コロナウイルス感染症の対策として、動画での発表も受け付けます。事前に発表を取組んだデータを提出してください。また、会場の様子は一部オンライン配信します。

第21回九州「川」のワークショップin筑後は、「公益財団法人川財団」「一般社団法人九州河川づくり協会」の協力を受けて開催します。

主催：第21回九州「川」のワークショップ in 日田 実行委員会
共催：九州河川協会の団体連絡会議 後援：日田市

九州「川」のワークショップin筑後

発表参加者・見学参加者募集!!

■発表までのご参加→右記によりお申込みが必要です。
九州の河川や流域で活動する団体(住民団体・学校・企業など)

■活動発表の方法
子どもの部：ステージ発表のみ(中学生まで)
大人の部：ステージ発表(1日目)とアピールタイム(2日目)

11/26 ステージ発表

○団体数(全部で40団体程度)
・子どもの部：10団体程度
・大人の部：30団体程度
○発表内容：環境保全、安全安心、利活用など
○発表時間：5分
○発表方法
1) 会場での発表
可視・人形等、壁やパワーポイントを使った発表など
発表方法は自由です
・パワーポイントはアニメーションなしの5枚以内
2) 動画での発表(録画なし)
・事前に撮影した動画(5分以内)を事務局まで届けてください。当日会場にて上映します。
○その他
・子どもの部のステージ発表終了後、発表に参加した子ども達による交流会を開催。
・子どもの部の表彰式は15時15分頃から行います。

11/27 アピールタイム

・ポスター掲示等を行う場合は、パネル状にして置き、イゼール等に立てる形をお願いします(壁への掲示は不可)
・1団体あたり2㎡前後が持ちスペースとなります。旗・ポスターを持ち込む数の参加にしてください。

■発表参加の申し込み方法

●別紙の応募用紙に必要事項を記入し、メールに添付の上お送りください。
●応募〆切：令和4年10月30日17時
※応募団体は40団体程度を上限とします。
●応募様式
以下のサイトから応募様式(エクセル形式)をダウンロードして下さい
<https://nriver.jp>
●参加支援：発表者(住民団体のみ)には、1名分の旅費・交通費の一部を補助します。行政や企業の方は自己負担をお願いします。
●応募申込書にて、事前申し込みをお願ひします。
第21回九州「川」のワークショップin筑後 実行委員会事務局 21krw@gmail.com
※問合せはメールにてお願いします。
■観覧のみのご参加について
河川の活動に関心や興味のある方はなたでも観覧いただけます。事前の申込は不要です。

■宿泊について
宿泊の予約等については、各自で対応をお願いします。インターネットでの予約が難しい方は、日田市観光協会 ☎0973-22-2036まで、ご連絡の上「第21回九州「川」のワークショップin日田の参加者」である旨を伝えて頂きますとホテル・旅館等をご紹介致します。

■11月26日(土) 交流会について
会場：日田市のビール園(サッポロビール日田工場内)
●会費：大人4,000円 大学生以下3,000円
●応募申込書にて、事前申し込みをお願いします。
※会場については、会場周辺の状況を確認をお願いします。
※新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、参加者数を必ずしも確保できず、定員を超過する場合があります。

■閉会後、希望者は現地見学会に参加出来ます。

●松岡ダム湖 遊覧船体験
●リハビリ 三層川 SUP体験
※詳細および申込みについては、別紙チラシをご覧ください。

講演(2日目 10時40分~) 一 開会挨拶

日田市長 原田啓介氏

昭和53年日田市出身。昭和52年3月、東海大学付属第五高等学校卒業。 (株) 日田ビル(日田の場) 役員、福岡県北東部観光協会事務局長、日田青年会議所理事、自由の森大学事務局長、日田市観光協会理事・監事、監事会議員などを歴任。平成25年8月から第9代日田市長に就任し、現在に至る。(現在3期目)



九州河川協会のつなごう 100周年 令和5年(2023年)、筑後川は本格的な改修が始まって、100周年を迎えます。

お問い合わせ先

<流域治水企画室>

筑後川河川事務所

住所：福岡県久留米市高野1丁目2番1号

Tel:0942-33-9131

E-mail:qsr-chikugo-p@mlit.go.jp



<水のたまり場> (筑後川河川事務所管内 各出張所)



大川出張所

住所：大川市大字向島 2631-2

Tel：0944-86-2516



諸富出張所

住所：佐賀市蓮池町大字小松三本杉 250

Tel：0952-97-0084



久留米出張所

住所：久留米市高野1丁目2-27

Tel：0942-32-7082



片ノ瀬出張所

住所：久留米市田主丸町菅原 2461-5

Tel：0943-72-3204



吉井出張所

住所：うきは市吉井町橘田 316-3

Tel：0943-75-2300



日田出張所

住所：大分県日田市中ノ島町 608-14

Tel：0973-23-5291



矢部川出張所

住所：みやま市瀬高町

上庄字松土居 470

Tel：0944-63-2520



筑後川防災施設

「くるめウス」

住所：久留米市新合川

1丁目1-3

Tel：0942-45-5042



筑後川河川事務所のPR動画公開中

「あなたも久留米にくるっば」



九州地方整備局 YouTube